



第 696 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日 時： 2024年2月10日（土）午後2時00分

来場開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

<https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/86875749070?pwd=dER4LzlmQlVTOXByK0tOWklROUlmUT09>



ミーティング ID：868 7574 9070 パスコード：918660

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
来場参加	1,000 円	専門医共通講習 1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60 分）
WEB参加	無 料	単位配布のご用意はございません。	* WEBにてご視聴いただく場合、聴講後に視聴者ログ、視聴時間などの情報共有をいただきますことをご了解お願いいたします。



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 696 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 日本医科大学 渡邊 誠》

一般演題 (1) 14:00 – 14:30 座長 三山 佐保子 (東京都立小児医療センター神経内科)

1) 頭部外傷歴が診断に重要であった Infantile traumatic brain injury with a biphasic clinical course and late reduced diffusion の乳児例

○河野 洋平¹⁾、伊藤 研²⁾、斉藤 彩²⁾、高見 遥²⁾、角皆 季樹²⁾、池本 智²⁾、松島 理士³⁾、
宮田 一郎²⁾、大石 公彦²⁾

(¹⁾ 東京慈恵会医科大学 臨床研修センター、²⁾ 同 小児科、³⁾ 同 放射線科)

2 か月乳児。てんかん重積状態となり、当院に救急搬送された。硬膜下血腫を認め、頭部外傷を疑い、頭部 MRI 検査で bright tree appearance を認めることから、Infantile traumatic brain injury with a biphasic clinical course and late reduced diffusion と診断した。乳児期頭部外傷後にけいれん重積型脳症と類似した臨床経過・画像所見を呈する疾患であり、誘因が明らかでない場合は頭部外傷歴の有無を調べることが重要である。

2) 他科との連携により、成人診療科に移行し得た青年期てんかん患者の 1 例

○蜂須 康亮¹⁾、吉田 登¹⁾、福田 茂孝¹⁾、飯坂 建太¹⁾、日比生 武蔵¹⁾、松田 明奈¹⁾、宮野 洋希¹⁾、
宮田 恵理¹⁾、鈴木 恭子¹⁾、大友 義之¹⁾、町田 理夫²⁾、西條 晴美³⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 小児科、²⁾ 同 総合外科・消化器外科、³⁾ 東京都立東大和療育センター小児科)

25 歳男性。乳児期にてんかんを発症、8 歳時から当科で加療した。特別支援学校高等部卒業後も家族の希望により当科で加療を継続した。24 歳時に重積を含む連日のてんかん発作があり経口摂取困難となった。25 歳時に当院で胃瘻造設術を施行した。担当医退職を機に移行医療を家族に勧め、6 か月の併診期間を設け成人診療科へ移行した。成人診療科との連携や併診期間を設けることで、小児患者の成人移行の理解を得られる場合がある。

3) 運動後に胸痛を自覚した特発性縦隔気腫の 1 例

○南 早織¹⁾、長尾 竜兵¹⁾、新井 健人¹⁾、市村 将¹⁾、大岩 純平¹⁾、山田 舞¹⁾、税所 純也¹⁾、
笹本 武明¹⁾、山中 岳²⁾

(¹⁾ 東京医科大学 八王子医療センター 小児科、²⁾ 同 小児科・思春期科)

14 歳男子。日中のサッカー後、夜間自宅で勉強中に胸痛を自覚し救急要請した。来院時に冷や汗と頻脈を認め、心拍に一致した左前胸部全体の雑音を聴取した。胸部 X 線検査で縦隔気腫と診断し、保存的加療で軽快した。小児の胸痛においては多くが予後良好であり、縦隔気腫もその 1 つである。しかし、頻度は稀だが重症例も報告され、初期診療で見逃される場合もある。発症前の背景等、疾患に関する文献的考察を行う。

一般演題 (2) 14:30 – 15:00 座長 檜崎 秀彦 (日本医科大学付属病院小児科)

4) ぶどう膜炎症例に対する全身検索の重要性

○八木 みなみ¹⁾、猪爪 昭彦²⁾、畠野 真帆²⁾、林 祐子²⁾、大坂 溪²⁾、伊良部 仁²⁾、宇田川 智宏²⁾、
清水 正樹²⁾、高瀬 博³⁾、森尾 友宏²⁾

(¹⁾ 東京医科歯科大学病院 総合教育研修センター、²⁾ 同 小児科、³⁾ 同 眼科)

ぶどう膜炎は全身性疾患の 1 症状として出現することが知られている。【症例 1】9 歳女児。問診での後頸部痛の既往から若年性特発性関節炎 (JIA) と診断された。【症例 2】16 歳女子。ぶどう膜炎治療中の尿細管障害の出現を機に、尿細管間質性腎炎・ぶどう膜炎症候群 (TINU 症候群) と診断された。ぶどう膜炎では眼症状のみならず全身評価が重要であり、眼科との密な連携が必要である。

5) 抗菌薬投与で改善した局所性舌腫脹の症例

○近藤 遼太^{1,2)}、島袋 林秀²⁾、堀川 美和子²⁾、守本 倫子³⁾、窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 教育研修センター、²⁾ 同 総合診療部、³⁾ 同 耳鼻咽喉科)

11歳男児。入院8日前に感冒症状が出現した。入院当日に微熱、全身の発赤、舌左側部の腫脹および左頸部の疼痛が出現し、経口摂取が困難となった。前医で溶連菌感染を指摘されたが、さらなる精査加療目的に当センターに入院した。児の舌所見から何らかの感染が関与している可能性が高いと判断し、抗菌薬による加療とともに画像検査を行った。溶連菌感染との関連も含め、局所的な舌腫脹に対する文献的考察を加えて報告する。

6) FilmArray 検査を用いた COVID-19 パンデミック後の呼吸器感染症ウイルスの検出状況

○魚本 和俊、春日 悠岐、西村 光司、森岡 一朗

(日本大学小児科)

COVID-19 パンデミック終了後の2023年1月から12月に、当院で上気道症状もしくは発熱を認めた小児を対象にFilmArray 呼吸器パネルでPCR検査を行った。ヒトライノウイルス/エンテロウイルスが通年性に154例検出された。ヒトメタニューモウイルスは21例、アデノウイルスは55例、インフルエンザAは24例検出された。COVID-19 パンデミック前後で呼吸器ウイルスの検出状況に変化がみられた。

一般演題 (3) 15:00 – 15:30 座長 田嶋 華子 (日本医科大学武蔵小杉病院小児科)

7) 高インスリン血症を合併した先天性門脈体循環シャントの1例

○姫野 佳歩、伊藤 一之、森丘 千夏子、杉江 学、森尾 友宏

(東京医科歯科大学 小児科)

日齢0新生児。胎児期より門脈の走行異常が指摘され、在胎39週6日、出生体重2604g、Apgar スコア1 分値2点、5分値5点で出生した。腹部超音波検査と造影CT検査により肝内型門脈体循環シャントと診断された。出生時から著明な低血糖を認め、日齢2に先天性高インスリン血症と診断された。ジアゾキシド投与などの治療を要したが、門脈体循環シャントの自然消退と共に低血糖が改善した。本症例の治療経過につき、文献的考察を含めて報告する。

8) 保育器内でファイバースコープにより外性器を診察した超低出生体重児の1例

○平泉 泰琳¹⁾、木島 俊英²⁾、小林 久人²⁾、佐藤 武志²⁾、有光 威志²⁾、鳴海 覚志²⁾、石井 智弘²⁾、長谷川 奉延²⁾

(¹⁾ 済生会宇都宮病院 小児科、²⁾ 慶應義塾大学病院 小児科)

日齢5新生児。在胎22週3日、体重483gで出生。性別決定目的に保育器の手入れ窓からファイバースコープを入れ、外性器を診察した。陰核横径5.8mm、Anogenital Ratio 0.45と推定した。臍帯血からSRYのPCRを行ったが増幅はなく、外性器所見とSRY陰性の結果をもとに両親は性別を女兒と決定した。ファイバースコープを用いて保育器内で児に直接触れず、外性器を詳細に診察が可能であった。

9) RAS 阻害薬不応の蛋白尿を呈し遺伝学的検査で CUBN 異常症と診断した1例

○相原 久人¹⁾、仲川 真由¹⁾、遠藤 周¹⁾、安部 信平¹⁾、鈴木 光幸¹⁾、野津 寛大²⁾、清水 俊明¹⁾

(¹⁾ 順天堂大学 小児科、²⁾ 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科)

5歳男児。3歳児健診で尿蛋白を指摘され、当院を受診した。尿蛋白クレアチニン比0.5～0.9g/gCrの無症候性蛋白尿が持続し、4歳時に腎生検を行ったが腎病理所見は微小変化であった。RAS阻害薬を投与したが尿蛋白は減少せず、5歳時に行った遺伝学的検査でCUBN遺伝子に複合ヘテロ接合変異を同定した。RAS阻害薬への反応性が乏しいことが、近位尿細管の蛋白再吸収障害であるCUBN異常症を疑う契機となった。

感染症だより 15：40－15：55 （講演：15分）

講師 砂川 富正（国立感染症研究所実地疫学研究センター）

共催セミナー 15：55－16：35 （講演：40分）

「侵襲性細菌感染症は忘れられていくのかー15 価肺炎球菌ワクチンバクニューバンス[®]の意義ー」

座長 森岡 一朗（日本大学医学部小児科）

講師 黒木 春郎（医療法人社団嗣業の会こどもとおとなのクリニック パウルーム）

Hib ワクチン、7 価肺炎球菌ワクチン定期接種化後に、侵襲性細菌感染症は大幅に減少した。こうした感染症はもはや「稀な疾患」である。しかしながら、こうした疾患が根絶されたわけではない。また、ワクチン普及後にも様々な課題は浮上している。この度新たに 15 価肺炎球菌ワクチンバクニューバンス[®] が上市された。今回の講演では、侵襲性細菌感染症の事例を共有し、さらにこのワクチン開発の経緯と意義に関して問題提起する。

共催：MSD 株式会社

* * 休 憩 16：35－16：45 * *

教育講演 16：45－17：50 （講演：60分＋質疑応答：5分） 専門医共通講習 1 単位

「医療経済から医療政策と臨床動向を読みとく」

座長 千葉 康之（ちばこどもクリニック）

講師 田倉 智之（日本大学医学部医療管理学分野）

医療を取り巻く社会経済の潮流は、ここ 20 年間で大きく様変わりをしている。このような中、医療イノベーションの進展などとも相まって、小児や癌などの領域の診療戦略も徐々に様変わりをしていると考えられる。最近では、新たなメカニズムによる高額な薬剤やスクリーニング検査なども散見している。これらは、患者の疾病負担の軽減も期待される一方で、ひっ迫する医療保険財政などを背景に、医療経済学にまつわる議論も注目がなされている。

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【年会費オンライン決済システム拡充に関して】

2023年10月2日（月）より現在のクレジットカード決済以外に新たに下記オンライン決済が可能となりました。

■ コンビニ決済（可能なコンビニ：ファミリーマート／ローソン／ミニストップ／セイコーマート／デイリーヤマザキ）

■ 銀行振込

2023年度年会費未納の方は2024年3月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

*会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2024年3月9日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

* 2024年度より現地開催のみとなります。

2024年6月8日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）

2024年7月20日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）

* 4, 5, 8, 11月は休会となります。

* 7月のみ第3土曜日開催となります。

【担当医局】 日本大学医学部小児科

連絡 ☒ : jpstokyo-office@umin.ac.jp

*講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】

<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

◆ 年間行事情報 ◆

小児診療初期対応（JPLS）のご案内

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を年間4回開催します。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2023 年 11 月 25 日（土）	日本大学	満員御礼
2023 年 11 月 26 日（日）	日本大学	満員御礼
2024 年 2 月 3 日（土）	国立成育医療研究センター	満員御礼
2024 年 2 月 4 日（日）	国立成育医療研究センター	満員御礼

申し込み：日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221